

平成27年

喜

多

流

涌

泉

能

第六十八回

平成二十七年十一月七日(土) 一時始

六 浦 高林昌司

魚説経 茂山千五郎

独吟 実 盛 高林白牛口二

隅田川 高林呻二

主催 高吟会

## 大江能楽堂

京都市中京区押小路通柳馬場東入ル 電話 075-231-7625

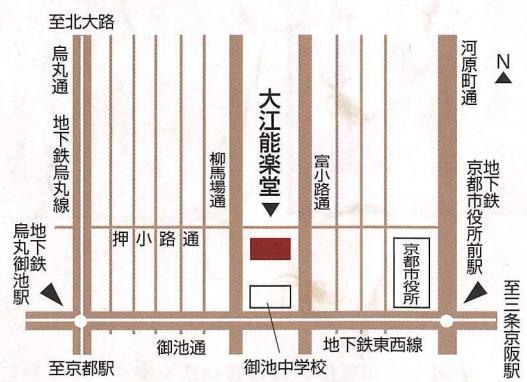
入場料 前売 7,000円 学生券 3,000円  
当日 8,000円 全席自由席

問合先 〒603-8354 京都市北区等持院西町15 高吟会

電話075-462-1490 FAX.075-463-3494

E-mail koginkai@f3.dion.ne.jp

URL <http://www.f3.dion.ne.jp/~koginkai/>



地下鉄「烏丸御池」または「京都市役所前」下車。徒歩約10分。

動 静 以 天 地

視 哉 涌 泉 美

鉢 之 翁

涌 泉 能 番 組

高 林 昌 司

福 王 知 登

喜 多 雅 人

島 田 洋 海

清 亀 井

水 瞠 広 忠

杉 前 川

信 太 朗 光 範

間

魚 説 経

茂 山 千 五 郎

松 本

薰

休憩二十分

実 盛

高 林 白 牛 口 二

隅 田 川

大 島 伊 織  
高 林 呬 二

江 崎 欽 次 朗  
松 本 義 昭

成 田 達 志 大  
森 田 保 美

次回予告  
車 江 口 東 岸 居 士  
高 林 昌 司  
平成二十八年四月九日(土)傘寿記念三代能東京公演

「能」の秘密(その二)

前編に「能」に占める「翁」の役割を述べましたので、今回はその意味を述べます。

「能」の構成で一曲の中核の役割を果たしている「舞」と云われる序之舞や神舞等は、何を意味しているのでしょうか。これらは全て「翁」の舞の理念から出来ています。特に喜多流では、重要な教えの中に「舞」においては一切の感情・行為が禁じられています。これは非常に重大な教えです。根源に「翁」の舞がある事を教えているのです。今の能の世界では、このことが忘れられています。特に現在に於いて、世阿弥の残した文献を資料として「能」を論じる場合、世上に出回っている世阿弥の伝書類に「翁」について論じているものがないため「翁」が「能」の原点であることに、一切触れられていないと云つても過言ではありません。

「能」は「翁」を原点としているため、歌舞本位では成り立ちません。型の一つを取り上げても、演技や所作としての意味のない型が大半を占めています。と云う事は演技や所作を工夫しても「能」は成り立たないと云う事になります。例えば「泣く」という所作を考えてみましょう。指を伸ばして掌を顔に近付けるだけで泣くことになるのです。一般的に考えて、どうしてこれが泣くと云う表現になるのでしょうか。所作以上に役者の内面的充実さが求められているからです。その内面の充実こそが、能面使用の目的と云えるのです。能面を使用することによって、役者自身の動物的肉体的感情や作為の全てを否定されます。その上で、役者自身の精神の昇華を表現することが「能」の本質と考えられます。前編で述べた「信の神」に対しての信仰心が、根底にあって初めて「能」の舞台に上る事が出来るのです。ここに舞うということの原点があります。舞う心は、始動点の体内の中核から涌き上がってくるものです。手にしても顔にしても、身体の中核から動き始め、それが先端に向かって伝搬して行つて表面に現れるのです。全身を緩からず固からず中庸に保つて、精神を安静の状態に置くことを一曲終始貫して努めなければなりません。

主 催  
高 吟 会

許可なく写真撮影録音録画は、堅くお断り致します。携帯電話 ポケットベル 時計のアラームは、予めお切り下さい。